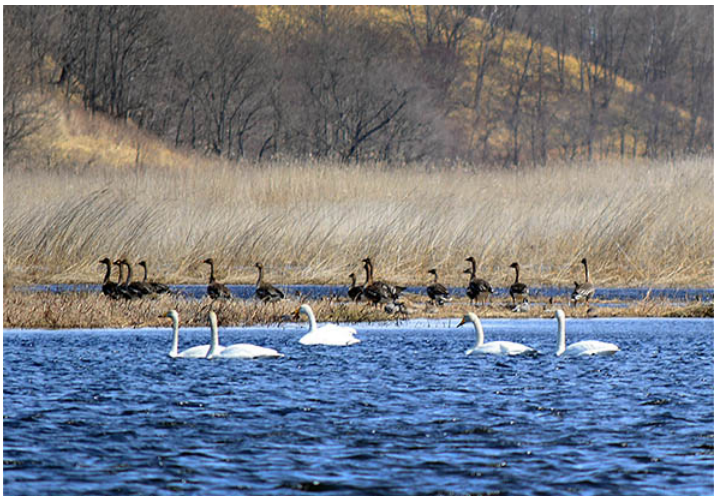
月刊やちまなこ

2016.4.15 発行
No. 221
4 月号

釧路湿原国立公園　塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



湿原散歩

雪解けが進み、水を湛えた湿原からエゾアカガエルの鳴き声がきこえ、季節は冬から春へと歩み始めた。繁殖のため湿原に渡って来たアオサギも卵を抱き、近くの湖ではヒシクイやオオハクチョウが集まり、北へ向け旅立つ準備をしている。彼らが消去る頃には、ノビタキやアオジ、オオジュリンなどの夏鳥が姿を現す。

コッタロ川と湿原のほとりから

190　4月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住．中本　アキ子（文）　中本　民三（写真）

料峭の候，“シューマンの谷間に春はめざめたり”がきこえる中，湿原では夢と希望が生まれては消えの繰り返しが続いております。この目まぐるしい状況にいち早くけじめをつけてくれたのは丹頂の第２コツ＆タロでつい先だっての４月６日二度目の営巣に入ったようです。“振り出しに戻り丹頂産卵す”。一方の第１コツ＆タロは３月１３日から抱卵し始めていよいよ残すところ１０日で孵化，という４月４日“清明に２卵さらわれ丹頂の番再び交尾始める”事態となって現在に至っているのも心底残念と云わざるをえませんね。この時季特有の雪解け水と雨とがもたらす川水のはんらんで，タイミングを狂わされるのも仕方ありませんが，年々乾燥化の進む湿原の保水力低下で樹木が繁茂し過ぎたヨシ原には，これまた繁殖に歯止めがかからず増加の一途をたどるエゾ鹿軍団によるろうぜき！狩猟期間が終了した４月からは，美味しい草の芽吹く広大な草地へと，保護区から列を成し大挙して移動してくる彼等にはたちうち出来ません。それが丹頂等の営巣と重なるからたまらない。鹿のヒヅメにけ散らされてこわされる卵も多いのでしょう。近年湿原の外で営巣を試みる番が確認されている由。不自然な悲劇と云えましょうね。

さて，凍土がすっかりほぐれ，雪などどこにも見当たらなくなると，大地から一斉に命の息吹きが噴出するコッタロでは“フワフワの土に角吹くワケギ哉”や“フツフツと池のクレソン手を伸ばす”様が見られると共にエゾアカガエルの大合唱が，全方位から響いてくるではありませんか。時折，思い出した様に降り積む淡雪にブルッ！と身をふるわせ乍ら，咲き出す花もあって“名残り雪花冠のフキノトウ”。

今日１０日朝９時この原稿を認めていると去年１０月２７日から冬眠中のエゾシマリス♂が地中の巣穴から這い出して，“シマリスの目覚めうるわし４月哉”と云った具合。庭じゅうを探さくして廻っている様子に，キジバト夫婦もあきれ顔で見守っているようです。

湿原の住人たち　その１８１　　ヒバリ

釧路湿原にも春を告げる鳥ヒバリが飛来しました。スズメよりやや大きめの全長 17 ㎝で、草原や農耕地などでみられます。枯草色の中では声が聞こえないとわからないくらい地味で目立たない体色ですが、アイヌ語でリこチリポ（高所・に行く・小鳥）や、ちゃランケチリ（論争する・鳥）などと呼ばれるように、上空でホバリングしながら長くさえずっています。熊本民謡のおてもやんの“ピーチク、パーチク、ひばりの子”のフレーズのように、ピ、パ、チの音が複雑に組み合わされたさえずりがきこえます。

日本鳥類保護連盟発行『鳥 630 図鑑』より→

シラルトロ湖と塘路湖の全面解氷日

シラルトロ湖と塘路湖の湖面を覆っていた氷が解け、移動の途中で立ち寄ったオオハクチョウやヒシクイ、キンクロハジロ、カワアイサなどの水鳥たちが羽を休めています。カヌーや釣りを楽しむ人の姿も見られるようになり、いよいよ春本番です。

ところで、過去 10 年の湖の解氷日記録をみると、シラルトロ湖も塘路湖も 2009 年と同じ日で最も早く、シラルトロ湖は 4 月 7 日、塘路湖は 9 日でした。ちなみに全面解氷日は、シラルトロ湖が 4/7～4/26、塘路湖が 4/9～4/29 です。

解氷前の塘路湖で（4/5）

2009 年、塘路では 5 月中旬から６週連続で週末に雨が降りました。気象庁のホームページを見ると、観測史上１～10 位の値（年間を通じての値）は、1983～2015 年の統計期間中、年降水量の多い方からの第１位（1638.0 ミリ）を記録しています。今冬は暖冬少雪だったので、今後の降水量が気になるところです。

つぼっちの塘路周辺うろうろ日記　Vol.８７「雪解けの落とし物・・？」

昨年とは一変し、今年は降雪も少なく穏やかに春へと向かっています。雪解けも早く、もうほとんど雪は見当たりません。フクジュソウはよく見かけていますが、今回はそれ以外の春の気配を探しに、湿原縁を歩きました。

すると雪解け水の通った後の斜面に、何やら光るものが・・・。見ると土器片や黒曜石の破片。昔、黒曜石製の石器は、激しい雨の後に畑でよく見られたことから“雷神の落とし物”などとも呼ばれていましたが、まさに雪解け水に土が洗われて姿を現した“雪解けの落とし物”です。大型で立派な土器片もあり発見できてよかった半面、実は毎年雪解けの際にその付近の遺跡が侵食されている事も知りました。

坪岡　始（標茶町郷土館学芸員）

４・５月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

春のバードウォッチング

［日時］４/２３（土）10：00～12：00

［定員・参加料］１５名・無料

［持ち物］あれば双眼鏡、フィールド状況によっては長靴。手袋、帽子など気温に応じた服装。

［集合場所］憩の家かや沼駐車場

＊講師の解説を聞きながら野鳥観察をします。初めての方もお気軽にご参加ください。

湿原の野鳥観察会

［日時］５/７（土）10：00～12：00

［定員・参加料］１５名・無料

［持ち物］あれば双眼鏡、フィールド状況によっては長靴。手袋、帽子など気温に応じた服装。

［集合場所］憩の家かや沼駐車場

＊繁殖のため釧路湿原に渡って来た野鳥を散策しながら観察します。

企画展・太平洋戦争と標茶展（標茶町郷土館共催）

［日時］４/２２（金)～５/９（月） 10：00～17：00　　レクチャールームで開催。

＊標茶町郷土館は昔、軍馬補充部の施設を塘路に移築したもので、当時の軍馬の育成技術が標茶の馬産業が盛んとなりましたが、大戦とともに施設が変遷していった過程を、資料やパネルを使い会場に展示します。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪申し込み問い合わせは　塘路湖エコミュージアムセンターまで　℡ 015-487-3003

春の湿原ハイク［日時］５/８（日）10：00～12：00

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪申し込み問い合わせは　温根内ビジターセンターまで　℡ 0154-65-2323

塘路湖･シラルトロ湖･コッタロ湿原周辺の自然情報

【 植物 】(3/18)フクジュソウ (3/28)エゾエンゴサク (4/4)ヤチハンノキの雄花咲く.カキツバタの芽. エンコウソウの若葉 (4/10)ウラホロイチゲ (4/11)フッキソウの蕾

【 鳥 】(3/19)カワアイサとミコアイサの群れ.コロニー上空を飛び交うアオサギ (3/22)ダイサギ (3/28)コガモ.キンクロハジロ.ヨシガモ.ヒドリガモ (4/3)シマエナガ.キバシリ.星空にヒシクイの鳴き声 (4/5)ヒバリ.タンチョウ.トビの抱卵 (4/11)ヨシガモ.ワタリガラス.ハシブトガラスの交尾

【その他】(3/18)エルタテハ (3/31)エゾアカガエルの鳴き声 (4/10)アメリカミンク .ヤチネズミ

■５月４日（水）みどりの日は臨時開館します。（４日～５日はこどもの日 凧作りを開催します）

◆日出・日入時間　4/15(4:41,18:05).4/30(4:18,18:22).5/14(4:00,18:38)

ウラホロイチゲ　(4/10)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター　あるこっと

〒088-2264　北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003　FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10：00～17：00（11 月～3 月は 16：00 まで）

休館日:毎週水曜日 12 月 29 日～1 月 3 日　　入館無料